ニンカン・ネット通信

ニンカン・ネット Vol. 9 2010. 2 .13

【発行】ニンカン・ネット　〒466-0833　名古屋市昭和区隼人町19　南山短期大学内　Fax（052）836-6543（南翔会事務局）

竹内敏晴先生を偲んで

南山大学人文学部心理人間学科
山口 真人

竹内敏晴先生が９月７日の深夜、名古屋の聖霊病院で息を引き取られました。84歳でした。病院からご自宅に戻られた先生は、今にも目を覚まされるのではないかと思うほどのお顔でしたが、少し小さくなっておられて、あまりにも儚く、涙が溢れ出てしまいました。

竹内敏晴先生は本学会員ではありませんでしたが、独自の「からだとことばのレッスン」や『ことばが劈かれるとき』などのご著書で本学会員には知らぬ者のいないほど広く知られた方でした。

私は南山短期大学人間関係科で竹内先生とご一緒し、チームを組んで授業をしておりました間柄ということで、私の知っている竹内先生についてお話しさせていただきます。

竹内先生は講演会などではいつも「私は芝居の人間ですから」と言っておられました。お亡くなりになる10日前まで東京のレッスングループの舞台の稽古をつけ、８月29日には車椅子とマイクの世話になりながらも舞台でご挨拶をされたあと、そのまま名古屋に戻られて入院されました。30日に予定されていた人間性心理学会でのワークショップはついに実現しませんでした。人生の最後を舞台で締めくくられたのですから、本当に最後まで芝居の人間でした。

私が竹内敏晴先生のお名前を知ったのは『ことばが劈かれるとき』を読んだときです。冒頭のチヨコちゃんが秋山先生のおでこにアーのこえをくっつけるというシーンは鮮烈でしたし、「話しかけるということは、こえで相手のからだにふれること、相手とじかに向かいあい、一つになること」という竹内先生のことばは、Ｔグループの中で人と人との間に生まれる対話の実感をぴたりと言い表していたからです。

当時の南山短大にお迎えしたいという願いが実現したのは、研究会にお招きした折に、時の学科長のメリット先生のお宅に泊まって意気投合したからだと伺いました。ちょうど竹内先生がご自身の人生の節目を越えるに当たって、カトリックの南山でキリストと向かい合うことが必要だったのではないかと推察しています。

さて、竹内先生の真骨頂はワークショップの竹内ではなく、やはり芝居の竹内にあったのではないかと思います。先生は人間関係科で10年以上にわたって「表現による自己成長」という授業を担当してくださいました。授業では、１回限りの上演という真剣勝負の舞台に向けて、一年間をかけて、からだほぐし、呼びかけのレッスン、歌のレッスン、詩のレッスン、無対象のエチュード、本選び、脚色、配役、読み合わせ稽古、抜き稽古、照明プラン、舞台作り、通し稽古、本番、ふりかえり、という芝居の上演のすべてのプロセスを通して、学生たちのこえが、ことばが、からだが、イキイキと弾むように働きかけ、まっすぐに相手に向かって立ち、その瞬間を生きるように指導しておられました。

演目としては、宮澤賢治『鹿踊りのはじまり』、谷川俊太郎『詩劇・部屋』、木下順二『夕鶴』、エンデ『モモ』、ブレヒト『セチュアンの善人』、メドフ『小さき神の作りし子ら』や竹内先生が南山短大25周年を記念して書き下ろしてくださった『愛の侵略～マザーテレサとシスターたち』（筑摩書房）などは何度も上演し、そのたびに新しい発見がありました。そして芝居に取り組む時の竹内さんは、ワークショップのときの穏やかな竹内先生とは異なり、悩み、歯噛みし、怒鳴り、笑い、感動する、最もイキイキとした“竹内敏晴さん”でした。

竹内先生は、ご自身の聴覚言語障害を克服してこられた体験を基礎に、卓越した集中力を持ってからだの動きを映し取り、他者に呼びかける存在としての人間を、具体的な体験として吟味したという点で真の現象学者だったと思います。博識でありながら借り物でない思考を展開したという点でも孤高の存在でしたが、しかし日常はお茶目な「たけちゃん」でもありました。

生き生きと記述されたレッスンの記録、詩人・哲学者・心理学者・社会学者・教育学者とのさまざまな対話、自らの身を削るようにして書き残してくださった著書の数々を通して、からだとことばを持った私たちが関わって生きるとはどういうことかを、これからも私たちに対して深く問いかけてくださると思います。ご冥福をお祈りいたします。

（日本人間性心理学会ニュースレター掲載文）

ニンカン・ネット企画

ミニ講座

Vol. 9

今年度は１回のみでしたが、春に星野先生のシリーズ完結のミニ講座を開催しました。

春のミニ講座

2009年5月16日
№11教室にて

「携帯・PC時代のヒト・モノとの新しいかかわりを求めて」
―“わたしのプロセス”“あなたのプロセス”を大切に―

【講　師】星野欣生先生

10回に渡り、「人と人とが共にあるため」の関わりを考えてきた星野先生の連続講座も今回が最終回です。

今回はウェブ社会の到来によって、もはや生活必需品となっている携帯電話・パソコンが、人との関わりにもたらしているものについて、星野先生のお話が中心の講座形式ですすめられました。

✻ ウェブ社会の特徴 ✻

携帯電話やパソコンの普及は、私たちの生活の合理化・スピード化をもたらしました。ボタン１つで多岐にわたる情報収集が容易になり、他人とのやりとりを距離に関係なく瞬時に行うことを可能にしました。

また不特定多数の人たちとのやりとりができるようになったことは、コミュニケーションのそれまでにないスタイルを生み出しました。

しかしその一方で、個人情報の思いがけない濫用、実体のない匿名性のやりとりによって、コミュニケーションは表面的かつ一方的なものとなり、つながることも容易ならば、関係を断つこともまた容易にしてしまいました。

その感情抜きの関わり方は時にモノを扱っているかのように感じることさえあります。

人との関わりを作っていくはずの携帯電話やパソコンが、人との関わりを脆く、無機質にしている状況―「関係をつくるものが、関係を追い出している」という皮肉な状況は、なぜ引き起こされてしまったのでしょうか。

✻ 現代社会における「ともにあること」の２つの側面 ✻

①ヒトと共にあること（直接の対面関係）＝プロセスを伴った関係

＊プロセスとは…
- ・自分自身や相手との相互関係を通して起こること
- ・感情の変化や心の動き、思いなどの内面的なもの
- ・行動の仕方
- ・身体への影響など

②モノと共にあること（携帯電話やPCを通した間接的関係）

＊モノそのものにプロセスはなく、モノが伝えるのはコンテント（内容・結果）のみ。

＊モノとヒトとの間にプロセスはある。
モノを操作している際の自分自身に目を向ける
＝自分との対話

◆エクササイズ（実習）―「ある日の私」

日常の中で起こった出来事を通して、自分がとった行動や思い、自分への影響などを検証して、そこからの気づきをうながす。

✻ 現代（ウェブ社会）を生きるために ✻

人との直接的な関わりには言葉だけでなく、ノンバーバル（非言語）表現が大きく作用します。表情や声の調子・行動は、その関わり合いにおいて、ことば以上の表現力を持ちます。

しかしモノを介してしまうことで、ノンバーバル表現は一切なくなり、ことば頼みの平面的なやりとりになってしまいます。

モノを介して間接的に誰かに何かを伝えようとする際に、私たちはどれだけ自分の気持ちや、相手の状況、心理的な影響を意識しているでしょうか？

時間や空間を共有することなく、目の前にいない相手に対して気持ちを砕くのは、想像力を要します。想像力を働かすことが、互いのプロセスに目を向けることへと繋がります。

プロセスはヒトの営みに在り、モノそのものにプロセスはないのですが、モノに関わっているヒトにプロセスはあります。

モノを通してのコミュニケーションがあたりまえになっている現代社会では、ひとりひとりのプロセスを大切にするとともに、モノと向き合っている際のプロセスにも注目していくことが強く望まれます。

✻✻✻

講座の後、モノを通した関わりについての意見交換の時間を設けました。

モノに囲まれた子どもたちを巡る環境や、世代・価値観の違いから起こるモノを通した関わりのズレなど身近な経験を題材に、活発な意見が出されました。

参加者の『ふりかえり』

- ・星野先生の10回目の節の講座に出席できてよかったです。「私が追っかけてきたことは、ともにあること（WITH-ness）」の一行にも感動しました。ケイタイ、PC等で便利になる反面、心のプロセスに気づき、直接的な会話の大切さを痛感いたしました。いつも星野先生には「今、ここに」で役に立つお話をして頂けて、本当によかったです。（5期）
- ・星野先生の区切りの10回目ということで楽しみにしていました。コミュニケーションを積極的にとる気持ちが薄いので、意識的にかかわりあわなければと思いました。PCが使いこなせないと仕事をするうえでは苦しいことが多く適度な関係が保てたらいいと思います。自分の気持ちと相手の気持ちのかねあい（バランス）がうまくとれるようになりたいと思いました。（12期）
- ・現代のネット社会の子供達をとりまく環境に考えさせられました。…結論のでない問題ですよネ…。（9期）

Vol. 9

ニンカンネットサロン

ニンカン・ネットでは13回のミニ講座を行なってきましたが、授業形式ではなくもっと気軽にわいわい集える場を提供したいと思い、卒業生主催の趣味や特技を使ったサロンを開くことにしました。何ができるかまだ未知数ですが、ここからニンカン生の輪がさらに広がっていけばいいなと思います。

ニンカンネット・サロン Vol.1

2009年6月13日
ベタニアにて

「アロマで心地良くハンド・トリートメント」

5期　内山早智子・小川けいこ

こんにちは、人関５期の内山早智子と小川けいこです。ベタニアにて「アロマで心地良くハンド・トリートメント」を行いました。

私たちは２年ほど前から昭和区川名にある花屋「サシェ」にてアロマ・クラフト教室を開いています。アロマ・クラフト教室では、植物から摂ったアロマオイル（精油）を使いトリートメントオイル、入浴剤、肌クリーム、ボディソープ、シャンプー、おそうじ剤、アロマキャンドルなどなど日常使えるものを、参加者のみなさんと楽しみながら作っています。

自然の恵みであるアロマオイルを生活に取り入れることで、自分の身体と心に目を向けながら心地良い時間が過ごせる。「安全！楽しい！手軽！」なアロマ・ケアをみなさんに知ってもらいたいと思っています。

今回のニンカン・ネットサロン「アロマで心地良くハンド・トリートメント」は、参加者のみなさんでペアを作ってもらい、お互いの肘から手先までをトリートメント（やさしくマッサージ）してもらいました。アロマオイルの成分が皮膚からと鼻から身体に取り入れられ、しかもトリートメントは気持ちよくお肌もツルツル。とても有効な活用法です。

持ち帰ったトリートメントローションで、友達や家族にハンド・トリートメントをしてあげたり、してもらったりしながら会話できたら、サロンのようなプロの技術がなくても、すてきな時間が持てるだろうなあとワクワクしていました。みなさん、使って頂けましたか？　人関生の温かなノリの良さ！　でとても楽しく過ごすことができました。ありがとうございました！　また、このような機会が持てたらうれしいです。

因みにこの時期のオススメは足浴です。洗面器などにお湯をはり、お好きなアロマオイルを１、２滴。あったまり血行が良くなります。良く眠れますよ！

濃度や使う方の身体の状態などに合わせた活用法をお教えします。興味のある方は、川名の教室をぜひ体験してみてください。日時が決まっているのでお問い合わせくださいね。

サロン体験記

ニンカン卒業生による初めての企画です。５期の内山さんと小川さんの、「アロマコーディネーター」になったきっかけを聞き、参加者の簡単な自己紹介をして、和やかな雰囲気の中、ハンドクリーム作りが始まりました。

「アロマケア」とは、日本語で芳香療法です。植物の有効成分を凝縮したエッセンシャルオイル(精油)を使って、心と身体を癒し、健康維持に役立てるものです。

自分の好きなオイル２種類とクリームをブレンドしてマッサージクリームを作ります。（学生の頃にやった理科の実験みたいです。）２人１組で、指先から肘まで、指導を受けながらハンドトリートメントをします。心地よい香りとマッサージで腕が温かくなり、身体もポカポカしてきます。３時には、お茶とお菓子も頂いて、まさに、心と身体の、リフレッシュです。

今流行の「アロマケア」が、どのようなものか興味のある方は、「アロマケアレッスン」や、「インストイラクター資格取得者コース」もしているとのことです。

（６期　織田厚子）

＊「アロマ・ケア」お問い合わせは、下記へお願いします。

内山早智子　tel:090-9902-0272　mail:sa-ra-ma-ma-_-sa-chi-ko@softbank.ne.jp
小川けいこ　tel:080-3061-0200　mail:From-keik626@c.vodafone.ne.jp

参加者の『こえ』

- ・とても楽しかったです。一人参加でしたけど、さすがはニンカンですね。すぐ慣れてしまいます。久しぶりに、とても楽しい時間、空間でした。アロマは自己流で楽しんでいたのですが、ブレンドの魅力を教えていただきました。（18期）
- ・はじめての方たちとも楽しくおしゃべりしながら時間を過ごすことができました。“アロマ”は初体験でしたが、最近、老化を感じながらの生活なので、楽しみとリフレッシュを兼ねて“アロマ”を生活の中に取り入れてみたいと思いました。（5期）
- ・めちゃ気持ち良かったです。フェイスのリフトアップとかのマッサージもこのクリームでやるとうれしいかも…。（9期）
- ・“アロマケア”という言葉はよく耳にしましたが、自分が実際にやってみるのは初めてで、とても新鮮でした。手のマッサージは良い香りがして、自分が選んだ香りも、相手の香りもふんわり香って手がやわらかくなり、気持ちよくなって横になって眠りたい気分になりました。子どもが幼稚園に通い出して時間がとれるようになったら、ぜひ教室にうかがいたいなあ～と思っています。（23期）
- ・ハンドマッサージがこんなにも気持ちが良いとは思っていませんでした。香りも自分の好きなのを選んだので、気持ちもリフレッシュできました。（9期）

ニンカンネット・サロン vol.2

2009年11月14日
ベタニアにて

「雅子先生と本を語る会」

ニンカン・ネットでは11月14日（土）午後1時半からベタニアで「雅子先生と本を語る会」を開催しました。先生は自他ともに認める『本の虫』ですが、その理由として、幼少の頃からお母様が本をよく買って下さり、活字を見ていると心が休まるということをあげられました。先生はアメリカ留学中にもしっかり本を読まれ、結婚されてからもベッドの横にいつも本がある生活で、お子さんが小さい時は日曜日は家族で図書館に通われたそうです。また、本の内容を記したリストも持参され、本当に楽しそうに本の魅力を語られました。

その後、15名の参加者が持参した本を紹介し合いましたが、皆さん各々に思い入れが強く、誰の話を聞いても「うん、うん」とうなずいてしまいます。

・子供への読み聞かせの大切さ
・押し付けないのに人生のヒントがある
・本を読みたくない時は、無理して読まなくてもいい
・自分の背中を後押ししてくれた
・読んで来た自分をやっと振り返れるようになった…

お茶とお菓子でくつろぎながら、何だかホッとした時間が持てました。機会があれば、また開催したいと思います。

（6期　古山美保）

みなさんのおすすめの本

「こころの子育て　誕生から思春期までの48章」
河合　隼雄
「火車」
宮部　みゆき
「パコと魔法の絵本」
関口　　尚
「ぼくのメジャースプーン」
辻村　深月
「おかあさん、げんきですか。」
後藤　竜二・作　　武田　美穂・絵
「おこだでませんように」
くすのきしげのり・作　　石井　聖岳・絵
「さっちゃんのまほうので」
のべあきこ・しざわさよこ・共同制作　　たばたせいいち・絵
「すこやかに おだやかに しなやかに」
谷川　俊太郎
「おばさんお話して」
手塚　まち子
「ことばが劈（ひら）かれるとき」
竹内　敏晴
「センス・オブ・ワンダー」
レイチェル・カーソン
「喜びの泉　ターシャ・テューダーと言葉の花束」
ターシャ・テューダー
「『レ・ミゼラブル』をよみなおす」
稲垣　直樹
「女性は挑戦する」
菅原　真理子（現　坂東真理子）
「エンデの遺言　根源からお金を問うこと」
(Ende's Last Message)　河邑　厚徳+グループ現代
「終業式」
姫野　カオルコ
「まほろ駅前多田便利軒」
三浦　しおん
「フォー・ディア・ライフ」
柴田　よしき
「反乱のボヤージュ」
野沢　　尚

参加者の『こえ』

・本好きの集まる、とても楽しい時間でした。読んでみたいと思う本がたくさんできました。ただ、もう少しゆとりを持ち、各紹介した本について語り合う時間があれば、もっと有意義な会になった気がします。それも踏まえ、「第2回をやりたい」と思います。（5期）
・なかなかない企画でおもしろかったです。本の紹介がもう少し分かり易いといいのかな、と思います。次回やるとしたらテーマを設けたり、何か条件を付けて行うのもいいかな？という気がします。映画の会もあるといいですね!!（16期）
・初めて参加させて頂きました。皆さんのお気に入りの本を教えて頂いて、とてもうれしく思いました。今はまだ本を読む時間があまりありませんが、これから是非、今日教えてもらった中から１冊づつ読んでみたいと思います。本を読む前のワクワクする気持ちを久し振りに持ちました。本当にありがとうございました。楽しかったです。（26期）
・先生のお元気な姿に会えてよかったです。本の虫の先生のお話を聞きたくて、久し振りにお話が聞けてよかったです。やっと子供が手を離れてきたので、また自分の読書の時間をとろうと思っています。（11期）

ニンカンネット・サロン vol.3

2009年12月12日
ビオ館№41教室にて

「セルフプロデュース講座～カラーで好印象をプロデュース!!」

16期　杉田純子・英語科（'97）小幡綾子

16期生の杉田（加々良）純子、英語科卒（'97）の小幡（川岸）綾子の2人で好印象をテーマに、内面/外面の双方から自分を演出していく「セルフプロデュース」講座を行いました。

「人は見た目が～」、「30秒で人の心をつかむ～」等、第一印象の大切さを謳う本が書店にはずらりと並び、またアンチエイジング美容、ダイエット、モテメイクなど外見づくりのスキルは、いまや女性だけでなく、男性にも重要なコンセプトになりつつあります。

相手によい印象を持ってもらうためのツールやスキルはいまやマニュアル化され、いつでもだれでも、手軽に取り込むことができます。

たとえば自分のカラータイプを判定してもらい、あなたに似合うのはどれとどの色だと提示してもらうのは、実にカンタンなこと。

でも実際問題、洋服屋にそのものズバリの色ばかりがあるとは限らないのです。

マニュアルに振り回されることなく、でもスキルを上手に使いこなせるようになるためには、その背景にある仕組みやプロセスと共に自分自身をよく知り、自分がこうでありたいというビジョンを主体的につくっていくことが望まれます。

他者評価に傾きがちな印象づくりを、内面と外面をバランス良く演出することで、心地よい関係づくりに活かしていきましょう！

サロン体験記

コートも要らないくらいの暖かい一日。ビオ館41教室にてセルフプロデュース講座を行いました。

今回のテーマは「カラーで好印象をプロデュース」ということで、前半を杉田さんが「セルフプロデュース」について、後半を小幡さんが「好印象を与える色使い」についてお話してくださいました。

まず、最初に自己紹介も兼ねて自分が今好印象だと思う人とその理由を発表しました。身近な人や有名人などたくさんの名前があがりました。

コミュニケーションにおいて、言葉が人に与える影響は3割程度で残りの７割は非言語表現だと言われています。

自分を表現しているものは①時間的要素②空間的要素③身体的要素④表情⑤周辺言語⑥もの⑦色彩などがあります。

「好印象」は大切ではありますが、社会の流れとして今は第一印象にこだわりすきているかもしれません。「みため」だけの判断基準になると真実を見誤ります。ビジョンを持ったうえでの「好印象」であるべきです。

次に、色の３属性（色味、明るさ、鮮やかさ）などについて色相環やトーン図などを実際に見てどのように見えるかを体験しました。色は、どんな色でも暖色（イエローアンダートーン）と寒色（ブルーアンダートーン）に分類されます。

髪色、髪質、ホクロの色、肌の赤みなどをセルフチェックして、自分がどちらの色味（アンダートーン）なのかを知りました。それぞれのアンダートーンに合う口紅が用意されていましたので、実際に塗ってみて確認をしました。

自分に似合う色使いをしていると肌や髪が美しく見えます。お似合いの口紅をつけて、講座後は少しきれいになった私たちでした。

（５期　榊原葉子）

参加者の『こえ』

・第1印象も大切、でも内容も伴うためには…いくつになっても勉強ですね。最後にニンカン・ネットらしく、なぜこの仕事に関わったかをお話いただきました。それもよかった。（1期）
・小幡さん、ありがとうございました。明るくさわやかな印象を受けました。自分に似合う色で、元気になれるんだなあと思いました。本人が楽しんで参加されているのが私にも伝わり楽しみました。（5期）
・好きな色＝自分の心の欲する色 と言うことばに「はっ」とさせられました。自分に似合わない色と思っていた色が似合うかもしれないということがわかりました。自分がどの季節に属するのか知りたくなりました。（6期）
・色のことがよくわかって楽しかったです。セルフチェックをしたのですが、本当に自分でした判断があっているのかちょっと不安です。（自分がブルーなのかイエローなのかわからない）杉田さん小幡さんがとても分かりやすく説明してくれて場もやさしく落ち着いた雰囲気になりました。お二人のお人柄かな～？（5期）

サロンを開きませんか？

ニンカン・ネットサロンでは、来年度も様々な企画の開催を予定しています！
そこで、卒業生のみなさんからの企画・提案をお待ちしています。
プロ・アマ、資格、実績等は一切問いません。
みなさんのキャリアや趣味・特技を発揮する企画・実践をしてみませんか？
もちろん、ニンカン・ネットスタッフがサポートします!!

お問い合わせ
ニンカン・ネット
staff5@ninkan-net.jp
までお願いします☆

＊物品販売・勧誘・思想/宗教活動に関係する内容はご遠慮願います＊

Vol. 9 2010. 2 .13 ニンカン・ネット

竹内先生を偲ぶ会

1984年（12期以降）から約10年間、人間関係科で教鞭を取られた竹内敏晴先生が、2009年9月7日に84歳でご逝去されました。東京と名古屋で開かれた「竹内先生を偲ぶ会」の様子をお伝えします。

東京　2009年10月18日

10月18日、空がどこまでも高く晴れた秋の日曜日、「竹内敏晴さんを偲ぶ会」に行ってまいりました。場所は東京・立川の「賢治の学校」。こちらは、宮沢賢治の生き方を手がかりにした教育活動の場だそうで、竹内先生もこの学校づくりに、初期段階から大いに協力されたとのことです。会が始まるまで、受付でいただいた手作りの「しおり」に目を通しました。見慣れた笑顔の竹内先生が表紙のそれには、レッスン風景の写真、好まれた歌の歌詞、そして年譜が書かれていました。それは竹内先生が「先生」である前からの生い立ち、職歴というよりむしろ目まぐるしい「生き様」でした。

会は「賢治の学校」の生徒さんによる静かな演奏とともに、献花から始まりました。読経も焼香も黙祷さえもありませんでした。先生と深く関わりのあった方が、時代順にエピソードをお話されたり、谷川俊太郎さんから寄せられた詩を読んだり、合間合間には先生が好まれた歌を歌ったり、時には笑いもあり、それはそれは手作りの温かな会でした。「賢治の学校」の教室はこの日、先生の写真展示室、ビデオ上映室、そして先生について語り合う「談話室」なんてものにまで変身していました。いかに先生が多くの生徒・仲間に愛されていたかと同時に、いかに先生が多くの生徒・仲間に全身全霊をもって、自分の中のものを惜しみなく分け与えて下さったかが、ここで過ごす時間とともに、心にどんどん染み渡っていきました。その一方で、失礼があってはいけないと思い、バリバリの喪服を来て行ったことが、逆に恥ずかしい結果に。ユーモアと毒舌交じりの先生に「あなた、馬鹿にめかし込んで来たねぇ」と、会の間じゅうずっと言われているようでなりませんでした。そしてこの温かな会は、先生の大好きだった「夕日」をみんなで歌い、「竹内敏晴さんに拍手喝采ー！」で締められました。

エピソードをお話されたある方が、こんなことを言われました。「竹内さんの体はなくなってしまったけれど、これからは、体のない竹内さんと新しい関わりをしていきます。」

私は、在学中に竹内先生に言われたことで、今でもなお濃く心に残っていることがあります。遺影に向かってお礼を言いました。生前の先生に言えなかったことが悔やまれます。というか、なぜ在学中のどこかで先生に直接お礼を言えなかったのだろう。ごめんなさい、先生。

会から帰った後、オリオン座流星群が見られるとニュースが伝えていました。２歳半の息子と庭に出て空を眺めました。「あ、こっちもおほしま（お星様）！こっちもおほしま！」流星は見られないものの、東京の、薄汚れた、そして小さく切り取られたこんな空にも、ひんやりとした秋の空気をまといながら、星はいくつも見えました。竹内先生は、あの星のうちのひとつになられたんだ。遠くても、近いところに、これからはいて下さる。そう思うとちょっとうれしくなりました。私は南短を卒業してからも、悲しいことに出くわすと、ある歌を何度となく口ずさんできました。だから卒業して17年も経とうとしている今でも、この歌詞を忘れることはありません。先生は覚えていらっしゃるでしょうか？今、私から先生へせめてもの「お礼代わり」にこの歌を改めて捧げます。「表現による自己成長」の授業で仲間がつくった、劇のエンディング・ソングです。

ぼくらは知っている　この時の大切さを
流されないで　そのままでいい　自分らしく生きること
思い出してごらん　遠い日の輝きを
空の青さ　風の輝き　君のまっすぐな瞳

ラララ　笑ってごらん　心開いて飛び込んでゆこうよ
空に向かい　腕を伸ばせば
ほら　何かがつかめるよ

―1992　表現による自己成長「モモ」
（ミヒャエル・エンデ作　竹内敏晴　演出）
エンディング・ソング
（「Top of the World/カーペンダーズ」の替え歌）

竹内先生、どうぞゆっくりお休みになってください。

（19期　糠谷明子）

名古屋　2009年11月22日

東京でのお別れ会に続き、南山短期大学でも11月22日に神言会ハウス礼拝堂にて大橋元学長先生による追悼ミサが行われ、その後ベタニアにて「竹内先生を偲ぶ会」が催されました。

当日は冷たい雨模様にも関わらず多数の先生方・卒業生が集まり、竹内先生から学んだことをあらためてふりかえり、またその思い出を皆で分かち合いました。

・からだをほぐすこと
・声を届けること
・今を生き生きと生きること
・ひとりひとりが主役であること
・ことばで触れ、ことばで造ること
・自分の声を手に入れた・・・

『部屋』『セチュアン』『モモ』『注文の多い料理店』
『夕鶴』『小さき神』『鹿おどり』そして『マザーテレサ』…

演劇の演出家であった竹内先生から、私たちは「表現による自己成長」「人間関係原論」等の授業を通して自分の裡なる力を、からだとことばの表現によって気づき、引き出し、自分のものにしていくことを学びました。

心よりご冥福をお祈りします。

（16期　杉田純子）

竹内先生の著書

竹内先生の教えは授業だけでなく、その著書を通して触れることができます。

「子どものからだとことば」（晶文社 1983）
「ことばが劈（ひら）かれるとき」（ちくま文庫 1988）
「からだとことばのレッスン」（講談社現代新書 1990）
「日本語のレッスン」（講談社現代新書 1998）
「思想するからだ」（晶文社 2001）
「声が生まれる―聞く力・話す力」（中公新書 2007）

竹内先生の授業を受けられた卒業生の皆さんはもちろんのこと、ご存知でない卒業生の方々も、興味のある方は参考にしてください。

同期会報告

6期生同期会

平成21年10月31日㈯、中区栄の中華料理店晁隆房（ちょうりゅうぼう）にて人関６期生の同期会が開催されました。卒業後30年、めでたく50才を迎えたところで再会しようという企画です。

今回は美味しい食事も楽しみたいという幹事の欲張りな意向にて、着席のコース料理という形式でしたが、各テーブル、先生方と共に和やかに会話を楽しむことができました。ご出席下さった伊藤先生、星野先生、グラバア先生、津村先生、山口先生、皆さん相変わらず、いや増々若々しく、私達の経年変化（？）の方が著しいのか、年令の差が縮まってしまったように思われました。卒業して30年を数え、皆さん仕事に諸活動にといろいろな形で活躍されているご様子。近況に花が咲き、デザートとコーヒーを頂いたところで、全員集まっての記念撮影。その後はお待ちかね、津村先生ご持参のギター演奏と熱唱で宴たけなわです。楽しいひとときとなりました。　（岡田みゆき　旧姓：川村）

10期生同期会

平成21年11月15日㈰、ホテルトラスティ名古屋栄で10期生同期会を開催いたしました。新型インフルエンザの影響などで急遽欠席の方も出ましたが、25名の参加でスタートしました。当日は星野欣生先生、伊藤雅子先生、津村俊充先生、杉山郁子さん（がーこさん）をお招きしました。諸先生方と先輩の変わらぬ情熱と、さらに進化と前進を繰り返されているパワーに圧倒されるとともに、南山大学の大学院の人間文化研究科教育ファシリテーション専攻に興味を示された方もいたようです。人間関係科や社会で学んだことをさらに探究し、スキルアップすべく、すでにその道を歩んでいる同期生の方もいます。近況報告会では卒業以来、無我夢中で駆けぬけてきた日々、仕事、子育て、あるいは介護など、ずっと継続しているもの、一区切り付いたもの、まさにオンタイムに直面して奮闘中のもの・・・・それぞれの背中に見え隠れする人生をほんの少しだけ垣間見て、私たちがそれぞれ歩んできた道程を“ふりかえる”とともに、これから自分は何処へ向かおうとしているのか、何を望んでいるのか…など改めて考える良い機会になったのではないでしょうか。

次に皆に会えるのは何年先かわかりません。ただ長い人生の中でわずか2年余りであっても、あの時期、あの空間を共有した仲間として、できることならまたいつか笑顔で再会の喜びを分かち合いたいものです。

（田財和枝　旧姓：池口）

津村先生からのおたより（抜粋）

6期　30年ぶりに再会したことで、これからの人生の活力をいただいたようです。つんつんの野望にさらに火がつきました。南山大学に移り10年の今、やらなければいけない目の前の仕事に追われ、自分が本当にやりたいこと・楽しみたいことを忘れそうになりつつある日々の中で、今回の６期生の同窓会に参加できたことは私にとってこれからの新しい一歩を踏み出すきっかけになりそうです。

10期　幹事の方々が工夫をして同窓会の企画を考えてくださっていました。短大入学時に行った生活合宿の宿屋の名前は？など短大時代を懐かしみながら、同期生との楽しいひとときが創り出されていきました。一つだけ残念なのは、津村も一緒にがんばって創った卒業アルバムを持って行こうと思いながら忘れてしまったことです。次回10期生の同窓会がある時には、アルバムをもって行きたいものです。そうそう、ギターも一緒に！

ニンカン・ネット奨学助成活動　～学ぶあなたを応援します～

「ニンカン・ネット」では、旧南山短期大学人間関係科の核となっている「体験学習」及びその応用を継続学習・研究・普及しようとする人間関係科卒業生を援助します。

《奨学コース》　講座受講料の50%（限度額5万円）、大学等への入学・編入費用のうち5万円を補助します。

◆申し込み受付期間　　第12回（春期4月～8月）　2010年3月末受付締め切り

（春期・秋期の年二回）　　第13回（秋期9月～3月）　2010年8月末受付締め切り

《一般助成コース》　人間関係科卒業生を対象にした同期会一回につき1万円を補助します。

こちらの申請は随時受け付けています。

☆申し込み方法、選考方法など詳しくはお問い合わせください。またHPでも詳細をご覧になれます。

問い合わせ先　E-mail:jyosei3@ninkan-net.jp　（HP内に問い合わせ用フォームがあります。）

「ニンカン・ネット」奨学助成を受けられた方々

1期　高木美智子

放送大学　大学院　家族心理学持論・臨床心理学持論　科目履修

私は、岐阜県内の小学校で「ほほえみ相談員」として、不登校児や発達障害児への対応、問題を抱える母親の相談、といった仕事をしています。これは、前回の奨学金助成で大学に編入学し、心理学を学んだおかげで得た仕事です。しかし、人に寄り添うには自分自身がもっと勉強しなければと思い、今回は放送大学院で家族心理学と臨床心理学を科目履修し、その後も継続して学び続けています。今、学校現場にはクラブ.英語活動などに地域講師といった外部からの人材が入っています。私は心理学の立場から、教師とは異なった視点で子どもたちと関わっていきたいと思っています。

10期　古田典子

沖縄ヒューマンインターラクション・ラボラトリー　受講

2008年11月末から4泊5日でHIL沖縄Tグループに参加しました。南短卒業後のさまざまな人生経験の中で培われてきた私自身を再確認し、社会人のTグループの中でどんなふうに人と関わってやっていく自分がいるのかを試してみたいと思い参加しました。沖縄のゆったりとした環境の中で、メンバーにも恵まれ、ありのままの自分を暖かく受け入れてもらう体験ができました。自分自身のものの見方や、関わり方の特徴も発見することができました。現在、私は人間関係トレーニングのファシリテーターとして活動しているので、そこでもこの体験を活かしていけたらいいなと思っています。

16期　鬼頭真理子

武蔵野大学　人間関係学部　人間関係科　心理学専攻　編入

私は昨年より小学校の心の教室相談員として働いていますが、経験がないうえに知識もないので不安になり、今年から武蔵野大学通信学部心理学科3年生に編入し、勉強を始めました。通信大学なら通学しなくても忙しい人でも大丈夫と、宣伝文句にはありましたが、カリキュラムは通学者と全く同じなので、苦労しています。でも久しぶりの勉強は辛いけれど楽しくもあり、卒業と同時に認定心理士になれることを夢みてがんばっています。助成金を頂いたこと、本当に感謝しています。勉強したことを、仕事と家庭と社会に還元していきたいと思います。

20期　Keyworth 香名子

University of Waterloo, Local Economic Development, master program 入学

ご無沙汰しております。先生方、スタッフの皆様、お元気でいらっしゃいますか？　この度は、助成金支援、ありがとうございました。カナダに移住して、早７年経ちました。その間、日系自動車会社で通訳の仕事をする中で、企業で学んだことを生かしたら、もっとよい地域が作っていけるのではないかなと思ったことがきっかけで、University of Waterloo, Local Economic Development のmaster programで学ぶことになりました。クラスメートの出身地は、エジプト、ペルー、ジャマイカ、カナダの西海岸と様々。彼らとdiscussionすると、経験、文化が、違うことで、これほどものの見方が違うのか！という驚きの連続でした。自分の見方が、全てではないのだということを、改めて再発見しました。久しぶりの学生生活、慣れるまで大変でしたが、なんとか無事最初の学期を終わらせることができました。

23期　小原みずほ

南山大学　人間関係センター　トレーナー・トレーニング　受講

人間関係研究センターの「トレーナー・トレーニング」を受講し、助成金をいただきました。二年前にも「トレーナー・トレーニング」を受講しましたが、再受講したことによって、自分の成長や変化を見ることができました。そして、更なる課題を見つけて帰ってくることができました。社会人になってますます「ファシリテーション」の深さを感じています。さらに学んでいくことができればいいなと思っています。

27期　沢田光代

東海・中部精神分析セミナー　ジュニア・コース　受講

南短を卒業してから、ゆっくりとしたペースで進学を重ね、臨床心理士になることができました。しかし、資格はあくまでも通過点にしか過ぎず、自ら先生についたり、講座にでたり、本を読んだりと日々の勉強により知識を増やしていかなくては、この仕事で出会う助けを求めてくる方々の力になることはできないと感じています。今回、精神分析セミナーに参加し、助成をいただきました。大好きなニンカンから助成をいただいたということもあり、講座を受けるモチベーションがさらに高くなります。応援してくださる方の存在にとても感謝します。

新 ニンカンネットスタッフ紹介

佐藤　愛（旧姓：久田）（25期）

数年前にニンカン・ネットの助成を頂き、南短のコミュニティカレッジ「人間関係講座」を受講しました。その時の恩返しと卒業後もニンカンと繋がっていたい気持ちがあり、お手伝いをさせて頂く事になりました。

さまざまな期の人間が出会える「ニンカン」は素晴らしい宝物だと思います。

学生の頃、授業で津村先生が「“staff”は“杖”という意味もある」とおっしゃっていた記憶があります。微力ではありますが、私もこれから活動をそっと支える存在になりたいです。

★　スタッフ募集します　★

ニンカン・ネットは、2001年10人程の卒業生によりスタートしましたが、現在は数名のスタッフで企画・運営しています。今後のさらなる活動充実のために、引き続きスタッフを募集します。

・定例会：毎月第３土曜日　午前11時～午後１時
　　（８・12月は原則休み）
・場　所：南山短期大学３番教室、21番教室
・交通費：全額支給
・活動内容：「ニンカン・ネット通信」作成発行、
　　ミニ講座・サロン運営、助成金管理

日時や場所は変更もありますので、事前にお問い合わせください。

ニンカン・ネット 掲示板

◆　講座情報　◆

◇グループ・トレーニング研究会（ＧＴ研）主催◇

人間関係トレーニング〔Ｔグループ〕

＊開催のご案内＊

人間関係の中で今、自分が課題としていることを学ぶための「学習者中心の学習」として、受け継がれてきた“Tグループ”をより多くの方に体験してもらえるようにグループトレーニング研究会(南山大学大学院教育ファシリテーション専攻の修了生が中心)では、合宿研修を主催しています。
詳しくは、http://www.gt-lab2007.com

日　程：2010年３月６日（土）～９日（火）　３泊４日
場　所：すいとぴあ江南　愛知県江南市草井町西200
　　名鉄犬山線江南駅より車で10分程度
　　当日は送迎車あり
対　象：20歳以上の方（参加申込時）
定　員：14名（最小開催人数６名）
参加費：64,000円（宿泊費・食費・研修費として）
　　学生の方には、参加費補助（半額）があります
予定スタッフ（グループ・トレーニング研究会運営委員）：
　　山口真人（代表）、杉山郁子（６期）、
　　水野節子（10期）、小山田奈央　他
参加ご希望の方は…（お問い合わせもお気軽にどうぞ）
ｗｅｂ：http://www.gtlab2007.com
メール：gt_lab2007@yahoo.co.jp
電　話：090-6870-1753（担当：小山田）
ＦＡＸ：052-990-3233

◆　Thanks!　◆

挿絵は５期　榊原葉子さん、先生の似顔絵は16期　三井由紀子さんにかいていただきました。また、編集・印刷は尾頭橋印刷所にお願いしました。

◆　寄付のお願い　◆

「ニンカン・ネット」は皆さまの寄付で運営されています。常時、寄付を受け付けています。

《振込先》
三菱東京UFJ銀行　八事支店　普通　1715892
ニンカン・ネット　代表者　伊藤雅子
＊名前と期（学生番号）を必ずご記入下さい。

～ご寄付をいただいた方、ありがとうございました。～

◆　記事、イラスト募集します　◆

次号への投稿をお待ちしています。また、表紙イラストや挿絵等「何か表現してみたい！」と思われる方は、是非お送りください。

担当：11期　清水みどり　FAX（052）781－0890
E-mail：staff5@ninkan-net.jp

◆　編　集　後　記　◆

今回は竹内先生の追悼記事を中心に編集しました。残念ながら私は先生との関わりはなかったのですが、それぞれの期の方にそれぞれの思い出があるという当たり前のことに気づくことができました。そんな視点で今後の通信作りができたらいいなと思います。みなさんのニンカンの思い出は何ですか？「ふりかえり」お待ちしています。

（11期　清水みどり）

◆　ニンカン・ネット　問い合わせ　◆

ニンカン・ネットのホームページでは講座・サロンの情報や先生・卒業生からのお便りなどを掲載しています。お仕事探しにも役立つかも。是非一度のぞいてみてください。

ホームページ：http://www.ninkan-net.jp
E-mail：staff5@ninkan-net.jp
FAX（052）836-6543（南翔会事務局）